

ITX Web会議システム「MORA Video Conference」

Android/iOS対応で場所を選ばず利用
携帯電話代理店が提供するWeb会議

Web会議システム「MORA Video Conference」を展開するITXが、6月に機能を拡充した「Ver.10」を投入する。Android/iOS対応を実現し、スマートフォン/タブレットを活用しての会議への参加が可能になる。また、リモートツールと組み合わせたソリューションで顧客の業務支援を強化する。

ITXは6月7日に、Web会議システム「MORA Video Conference」のバージョンアップ版「Ver.10」をリリースする。

MORA Video Conferenceは、市場投入から8年目を迎えており、現在は「Ver.9.0」を展開している。提供形態はASPモデルとサーバー導入モデルの2種類だ。

ソリューション事業本部事業企画推進部ネットワークソリューショングループ営業チームの新井麻奈氏は、「ID制でかつ完全定額制が特徴」と語る。ASPモデルの場合、1ID当たり初期費用8万1900円、月額費用は3150円となる。

1つの会議室には最大20人（拠点）まで入室できるが、好きな数だけ会議室を作ることが可能な点も特徴だ。例えば20IDで契約した場合、全員参加の会議のほか、2拠点を結ぶ10の会議を同時に開催するといった利用も可能だ。つまり、会議室単位の課金や従量制といったサービスとは違って、いくつ

もの会議室を、時間を気にすることなく、自由に利用することができる。

20拠点を超える同時接続にも対応可能だ。オプション（サーバー導入モデルは標準搭載）の「セミナーモード（多人数モード）」機能を利用すれば、表示画面は1つになるが、1つの会議室に最大1000人（拠点）が入ることができる。実際に世界800拠点に講演をライブ配信しているユーザーもあるという。

SSL（TCP443）またはHTTP（TCP80）のポートが開いていれば利用できるため、ユーザーは自社のセキュリティポリシーそのまま導入できる。

モバイル環境で威力発揮の
自動再接続機能

「誰もが簡単に利用できることが重要」という考えから、シンプルさを追求し、資料共有やホワイトボードなど、Web会議に欠かせない機能も、画面に並んだアイコンをクリックするだけで



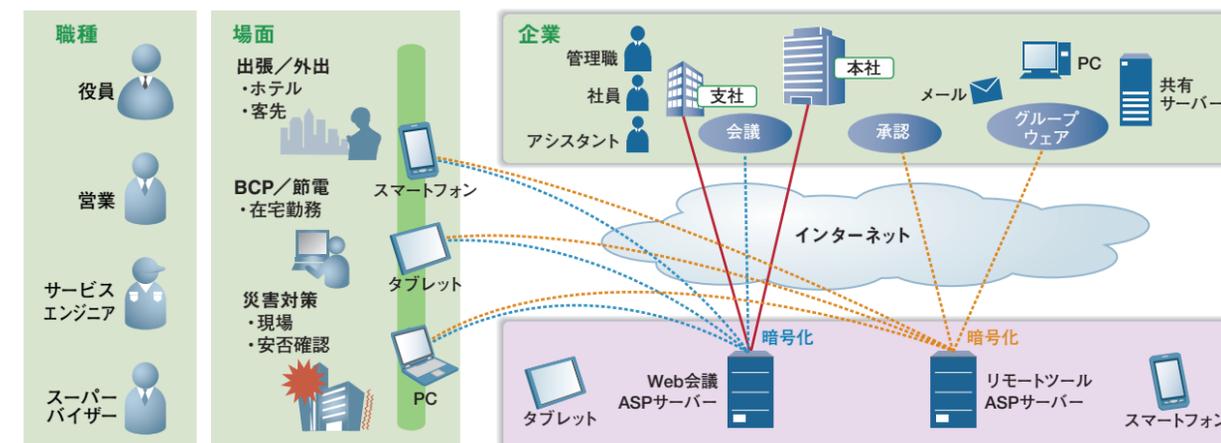
「GALAXY Tab」での表示イメージ

直感的に操作できるようにしている。

また、「映像、音声、それ以外のデータをそれぞれ別々に通信するようにしている」（新井氏）といい、回線帯域が狭くなっても、途切れ途切れになっても問題ない映像から落とし、音声を優先的に流す仕組みにしている。音声サンプリングレートは8～32kHz、ビデオサイズは標準で640×480ピクセルまで、オプションで1280×720ピクセルまで対応しており、CD並みの音質と、高画質を実現している。

さらに、自動再接続機能も重要な特徴だ。特にモバイル環境でその威力

図表2 「MORA Video Conference Ver.10」で提供するビジネススタイルのイメージ



を発揮する。Web会議への参加中に電波が不安定になって接続が瞬断した場合でも、再ログインや再入室をすることなく、自動的に同じWeb会議室へ復帰できる。

使用回線帯域を抑えるため
ASPサーバー側で通信制御

6月にリリースする「Ver.10」では、これらの機能に加え、①Android/iOS対応、②資料共有機能強化などを実施している（図表1）。

①により、スマートフォン/タブレットからWeb会議への参加が可能になる。対応OSはAndroid2.3/3.1/3.2とiOS4以降で、「Google Play」「Appstore」からアプリケーションをインストールして利用する形になる。

ポイントは、使用回線帯域が少なくなるよう、ASPサーバー側で通信制御を実施する点だ。音声データは、参加者全員分のデータをミキシングしてサンプリングレート8kHzに調整して送受信、映像データは最適化し、送受信する。

また、前述の自動再接続機能も大きなアドバンテージになる。

②ではまず、PDF資料の表示機能を強化した。会議の参加者各自でウィンドウの大きさ、表示倍率の変更が可能になったほか、参加者間で表示倍率が異なっている場合も描画が同期

される。

また、Officeドキュメント共有機能について、従来のHTML形式に変換して共有する方法に加え、PDFファイルに変換し、画像として共有する機能を追加した。

このほか、図表1に示したように、「招待機能」や「アクセス制御機能」、「中国語対応」などの機能強化を行っている。

携帯電話販売代理店の
法人部隊が拡販

ITXでは、今回のバージョンアップを機に、「スマートフォン/タブレット」を切り口とした販売施策を強めていく。

まず、販売ターゲットの拡大だ。これまでのテレビ会議/Web会議システムは、複数の拠点を持つ企業を対象に、「社内出張コストの削減」や「移動時間短縮による業務の効率化」を実現する会議ツールとして提案してきた。だが、スマートフォン/タブレットを活用することで、会議以外の業務を支援するためのツールとしてWeb会議を提案できるようになる。このため、「外出する経営者や社員がいる会社は、すべて提案の対象になる」と新井氏は語っている。

販売チャネルも広がる。同社のメイン事業は携帯電話の販売であり、一次

代理店として、すべての携帯電話事業者のショップを全国規模で展開し、約500店舗を構えている。

同事業では法人向けの専門部隊を組織しており、今後はこのチャネルも活用して拡販していく。

商材としては、「Web会議サービスと、当社が別に販売しているリモートツール、それからスマートフォン/タブレットといった端末。これらをパッケージ化し、「スマートデバイスソリューション」という形で展開することも考えている」という。

そのシステムイメージを図表2に示した。リモートツールも合わせてパッケージ化することで、スマートデバイスをWeb会議端末として利用するだけでなく、外出先で役員が決裁をするための端末、スーパーバイザーが外出先から社内サーバーにアクセスして業務を行う支援端末というように、利用シーンが広がる。

これらの施策を推進することで、「携帯電話代理店が提供するWeb会議」という位置づけで展開していきたい」と新井氏は語っている。

お問い合わせ先

ITX株式会社
事業企画推進部
ネットワークソリューショングループ
TEL : 0120-600-663
URL : <http://www.web-kaigi.com/>

図表1 「MORA Video Conference Ver.10」でバージョンアップする機能

ポイント1 Android/iOS対応

主な実現機能

- 映像・音声の送受信
- 前面、背面カメラの切替
- 自動再接続機能
- 資料共有（受信のみ）
- 通信暗号化

機能強化の

- 招待機能（追加オプション機能）…MORA Video ConferenceのIDを持つユーザーがIDを持たない人を呼び込める招待用URLの発行を行うページを作成し、招待数分のURLを発行
- アクセス制御機能（ASPでは要AdminToolオプション）…管理者が接続元のIPアドレスでログインに制限をかける機能を追加
- 中国語対応…ログイン画面からの言語選択で、日本語、英語に加え、中国語に対応 他

ポイント2 資料共有機能強化

- PDF資料の表示機能強化
- Officeドキュメント共有方法追加